

平成17年度第2回山形県立博物館協議会 記録

平成18年2月8日(水) 午後1時30分～3時40分

於：山形県立博物館 講堂

出席者 委員9名(相田委員、六車委員欠席)
向出社会教育課長、結城社会教育課長補佐
伊藤館長、高橋副館長、阿部副館長、安部学芸専門員、
浅黄学芸員、神保学芸員、青木学芸員、吉田研究員、八楯研究員

(開会前15分間 SAY-TV 放送「きいて委員会?」2/5(県博を紹介)を見てもらう)

(進行 高橋副館長)

1 開 会

2 あいさつ

(1) 教育庁社会教育課長

施設設備の老朽化、手狭になったこと、展示内容の陳腐化等の要因から、県民のニーズに応えられない状況にある。県財政の厳しい中、施設を大事に使いながら必要な改善、展示リニューアルでやっていかなければならない。そのため、今年度は冷暖房設備の更新をした。また2月補正での改修工事などを実施する予定。

展示リニューアルに関しては、活性化検討委員会の設置、検討により12月に報告書をいただいた。今後は、これを生かして、18年度は、本協議会を中心に費用概算見積り、内容の検討などの具体的検討をお願いしたいと考えているのでご指導を賜りたい。

(2) 山形県立博物館長

以前からご意見のあった「評価」について、今回は内部評価を協議会にご検討賜りたい。

今年度の方針として掲げた ①主催事業の充実(カブトムシクラブは18年度も継続したい)により何とか入館者減を阻止できている。②学校教育との連携 ③広報活動の強化(ホームページ活用、TV放映(3/26は教育資料館)) などについて取り組んでいる。

冷暖房設備更新、活性化検討委員会の提言は、課長のあいさつのとおり。

18年度から、土日の職員体制強化のためにも、月曜日(現在は、休館日でも2名勤務)の完全閉庁を考えている。

(以下、会長が会議を進める。)

3 報告

(1) 平成17年度主要事業の進捗状況について (阿部副館長より説明)

【大場委員】 評価項目の設定についての考え方は？

（前の頁は大枠の項目、次頁で事業毎の評価とした、との答えに）
事業項目ごとの設定の方がいいと思う。

【野口比委員】 内部評価に利用者からの視点を加えているか。

〔答〕 企画展などの際にご意見箱で感想、評価をいただいている。
評価項目毎に入館者の意見をとると効果的だとは考えている。

【元木会長】 入館者アンケートをまめにとったほうがあとで活用しやすい。

授業アンケートの結果を予算や設備改善につなげている場合もある。

【野口一委員】 ① 資料の数量は、点数か件数か？

② 山形県博物館連絡協議会加盟館数は？

〔答〕 ① 件数（1件に複数点の場合あり）としている。

② 77館

【安達委員】 ① コンピューター利活用、データベース化が不十分として
いるのに評価Aに2が入っているのは？ ② パソコン充実の状況は？

〔答〕 ① 将来は当館所蔵資料を画像でアピールしていきたいが、今は
データベース化の途上にある。

② 県庁が推進している一人一台の充足もまだまだである。

【大場委員】 有料入館者の減、学校団体の減の理由は？

〔答〕 きちんとした分析はできていないが、修学旅行の見学先としては、
展示内容、施設条件、場所などの点で魅力不足と見られていること
かと思う。ゆとり、総合学習などに対して厳しくなっている最近の
傾向が影響しているかとも思う。

【大場委員】 山形市少年自然の家の場合は、同じ教育状況の中でも、

子どもも大人も利用者が増えている。県立博物館としての魅力づくりが
必要だと思う。

4 協議事項

（1）平成18年度の運営方針・事業計画について

（館長より「1基本方針～3重点事業」、
阿部副館長より「4事業計画～」説明）

【酒井委員】 収蔵庫が満杯とあるが、収集のスペースを確保するメドが
たっているか。「資料評価委員会」は過去の収集資料の評価も行う
のか。

〔答〕 収蔵庫確保にいい案はない。市町村合併の進行にともない使われ
なくなる県有庁舎でもあれば、と働きかけてはいるが。リニューアル
に向けて大事な課題と思う。評価委員会には過去から今後までカバー
していただきたいと考えている。

【元木会長】 寄贈の申し入れはすべて受け入れているのか。

〔答〕 一部門だけでない目でまず調査した上で当館としての選択により受け入れている。

【安部委員】 18年度から評価委員会を組織するのか。 (まずは導入についての検討から、と考えている、との答えに) ゆっくり過ぎないか。

【安部委員】 博物館の民間管理の動きについてはどうか。

〔答 社会教育課長〕 指定管理者導入の大きな流れがあり、4月から「うきたむ風土記の丘」を移行する計画である。博物館、図書館、青少年教育施設については、県が直接運営すべき、と主張している(他県では移行の動きあり)。これから議論になってくると思う。

【安部委員】 「子どもたちの居場所づくり」事業(文部科学省予算)について、静岡では博物館フロアを一般に開放しており、活気が見られた。ここは地域の人と距離がある。文科省事業の内容は？

〔答 社会教育課長〕 文科省が16年度から実施している事業で、民間の力を活用しようというもの、県内でも110箇所を実施。市町村には、地域の大人を巻き込んで計画してもらうよう指導している。

【野口一委員】 ①特別展、企画展の名称はこのままでいいのか、「新収蔵品展」など。より興味を持ってもらえるようタイトルを工夫すべきと考える。

② 「ばんどり」展、村山にも「ニセミノ」があり、地域によりミノの形、美に変化がある。庄内のばんどりだけで県全般に訴えられるものがあるか。ニセミノとの対比などの企画なら面白いと思う。

③ ホームページは魅力ある作り方が欲しい。博物館資料について調査、勉強している人にも応えられるように。人員不足で大変とは思いますが。

④ 研究報告書印刷予算がなくても、手作りでもやるべき。学芸員の活動記録として大きな意義がある。何年かに1回は必ず残すこと。特別展分はその年度にきちんと、手作りで何冊かでも残して行くことが大切。

⑤ ボランティアについて、現在は解説案内だが、そのほかにも資料整理に協力をもらうことは博物館として不可欠、この分野へのボランティア導入が必要と思う。

⑥ 収蔵庫にある資料の中に、たとえば平清水焼コレクションなど、まだ県指定になっていないがそれに値するものを積極的に紹介していくべきと思う。貴重なものを沢山持っている。文化財指定につなげていくべきである。

【安達委員】 ① 館長講座は大人を取り込むのにとってもいい。参加人数が少ないのはPRに難があるか。「イケメン館長の・・・」とか、興味を引く工夫がいる。館長は博物館の顔なのだから積極的な取組みを望む。

② ボランティアを丹念に養成しているが、入館者の少ない日はどうしているのか。資料整理などに協力してもらってもいい、ボランティアの位置づけに配慮が必要と思う。

[答] 冬期は入館者が少ないので、ボランティアには少人数でお願いしている。資料整理の方向も必要と考えているが、事前に館員側の段取りが前提となるため、現在のところ踏み切れないでいる。

【日野副会長】 ボランティアの活動の状況はどうか。

[答] 各人の案内件数はとっていないが、日誌に記録してもらっている
ので、それで把握している。

【野口比委員】 ① 博物館の各種事業のネーミングには工夫が必要と感じる。
魅力的で、対象の心に響く名前付けを。

② ボランティアの活用では、学生ボランティアなどはITに強く、
ホームページの更新などに協力してもらえないのではないか。

③ 学校との連携について、子どもたちは調べ学習をインターネットで
済ませてしまう。本や現物に当たる経験を積ませることが大切と思う。
これこそ博物館の役割で、たとえば博物館から学校への資料貸出し
パックとかの工夫ができるのではないか。

④ いわゆる 2007 年問題、リタイアする「団塊の世代」向けの事業の
設定などにも取り組むべきと思う。

(2) 山形県立博物館の活性化について

(阿部副館長が活性化委の検討のあらましを説明、
高橋副館長が「協議会 18 年度開催予定」を説明)

【大場委員】 リニューアル、活性化に取り組むのはいいが、山形市では霞城
公園に史跡整備事業を進めている。事業は遅れ気味だとはいえ、国との
約束があり、どの程度のリニューアルなのかが問題。報告のように舟を
浮かべるなどの大規模工事となるのか。

県体育館・武道館の解体については利用者団体側の要求もあり、いつ
までの存続が許容されるか、市・県が文化庁と協議しながら、後 10 年
か 5 年か、これから結論が出てこよう。このように将来に不確かな
事情を抱えながら、リニューアルをどう位置づけようと考えているのか。

[答 社会教育課長] 県は博物館が平成 20 年までに出て行くとは約束
していない。昭和 59 年の時点で、知事と支庁との間で「平成 17 年度
までに出る」と約束した。平成 15 年に市と再び協議し、市側は
「体育館・武道館は 18 年度まで、博物館は 20 年までに出てくれ」
との意向だったが、県としては「体育館・武道館はそれまでに出る。
博物館はそれまでには無理」ということで、博物館については今後の
協議にゆだねることになった経緯がある。

体育館・武道館が（市民要望により）18 年度に出ることが出来ない
件については文化庁と協議の必要がある。博物館については、20 年度
を超えてもすぐ新築移転が無理なことについては、貴市でも事情を
おわかりいただけるものと思う。山形市との協議を今後していかな
ければならない。

今の博物館として、何もしないで置いてはられないので、直しながら使っていく必要があります、市、文化庁と相談しながら、ある程度のお金をかけて、県民サービスを維持して行かなければならぬと考える。それが今回のリニューアル構想となっている。

【安部委員】 博物館が17年度には移転しなければならないとなつて、移転策に夢を見たが、いまのような状況になつて、いかに行政が難しいかを実感している。

【日野副会長】 県立中央病院跡地及びその周辺に県の美術館、博物館、公文書館を含む全体構想を主張したが、博物館、公文書館だけでも欲しい。

活性化の報告書に楽しみな点が出されているが、やはり予算状況がどうか課題で、従来の取り上げられたリニューアル策の経緯と同様に、実現性がどうかというのが率直な疑問である。

〔答 社会教育課長〕 18年度当初予算では、基本設計を要求したが財政課の壁が崩せず、必要性はわかるが、全部やるといわれても、項目毎にいくらかかるかわからないので、予算付けの選択可能な概算把握をやれ、といわれた。

活性化報告書にある池や舟は大規模工事ではない、池の形は既存しており、それを復活させる程度となる。

【安達委員】 秋田県博のリニューアルはいくらかかったか。

〔答 社会教育課長〕 20億円と聞く。

【大場委員】 公園での存続期限は有限であり、施設の大規模な改造は出来ない。いつまで存続できるか、協議によりまもなく結論が出よう。最大10年としてもちょっと解決策にはならない。移転を考えたほうがいいと思う。今、知事は金を出せないというが、県・市で色々協議を重ねて行く必要がある。

【安部委員】 リニューアルが出来たと思ったら移転、などという手戻りのないように、県にはお願いしたい。

【野口一委員】 昭和50年代半ばに展示替えをしているが、ほとんど変わってはいない。どうにかしてもらいたい。入館者減少も当然といえる。

活性化検討委員会報告書にある池の構想、もともとあった池自体が最上川をイメージしていたが、やがて水が抜かれ舟が出されてしまった。今回のも元に戻ることにしたものだといえる。

公園構想では本丸が復元されない。県立博物館がありながら城のことがわからない。本丸の資料館を取り入れた形で県立博物館を整備した方がいい。石垣にちなんで信州石に関する展示会など、県立博物館では史跡復元に関わる展示がやれそうに思う。紅花・青苧、山形城など、どうとらえてこの結論に到ったのか。

【大場委員】 他機関とのネットワークこそが県立博物館の存在意義。
済生館三層楼、山形美術館、最上義光記念館、文翔館、また山形第一小
旧校舎（耐震化で16億円事業。どんな形で運営するか、収蔵庫や展示場
として活用できるか…今後の検討）など、まわりの館とのネットワーク
の中で活性化を図って行くべきと思う。

【元木会長】 ネットワークでは何を実際にやっていくか。例えば共通入場券
など、具体的なことに取り組む必要がある。済生館、最上義光記念館と
共通入場券でやるとか。

活性化検討委員会報告書に盛られた項目は、少し絞ったほうがいいと
感じるくらい取り組むべき課題が多い。まずは活性化の第1歩として
実らせることができるように、次回（6月の協議会時の合同検討）で
やっていきたい。

(3) その他 (なし)

5 その他 (なし)

6 閉 会 (15:40)

※ 終了後、企画展の解説会を行った。(解説安部学芸専門員)